

文化の森の「生活体験館」は不思議な場所です。

毎年、小学3年生はここで「昔の道具とくらし」の学習をします。まず敷居をまたぐと「くさい」と言います。まきでいぶされたたにおいのことです。そして、このにおいに包まれながら、昭和の昔の食卓とその時代の人々の暮らしぶりを学ぶのです。

次に土間を通って部屋に上がると、今度は「暗い」と言います。ここで、ランプに火をともし「わっ、明るい」と一斉に声をあげます。明かりのありがたさを感じた瞬間でした。

ある日、中学生が餅つきに来ました。かまどにまきをくべ、せいろでもち米を蒸します。まきの火を囲み、「そういえば小学校の時、ここで洗濯したな」「まき割りもしたよ」と話していました。あの時の生活体験館のにおい、明かりのまぶしさが今ここで、よみがえったようです。